

令和7年度地域連携支援事業補助金 事業報告書（ダイジェスト版）

プロジェクト名	祇園祭担い手創生・支援のための岩戸山デジタルプラットフォーム構築事業
代表者	京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系・教授 朽木順綱
連携先	公益財団法人 岩戸山保存会
実施期間	2025年6月～2026年1月
事業の背景・目的	祇園祭の山鉾を保有する山鉾町では、高齢化や市街地定住人口の減少などにより、新たな担い手の創出が喫緊の課題となっている。そこで本事業では山鉾町のひとつである岩戸山町の協力を得て、祭礼時における山鉾および山鉾町内空間の使われ方の実態を、各種デジタル機器により記録することで、3Dモデルやヴァーチャル空間などを活用した担い手育成や作業分担シミュレーションのシステム構築を試みる。
事業内容	山鉾を構成する一部分である屋根に関して、組立に用いられる各部分の部材および組立後の全体像のデジタル3Dスキャン（手持レーザースキャン、定点点群スキャン、フォトグラメトリ記録）に取り組んだ。今年度はとりわけ、本来の保存施設の修繕工事に伴い、部材が仮置移転されていたため、例年よりも保管場所のスペースに余裕があったことから、各種の計測、記録作業が容易であることが見込まれた。この機会に臨み、保存会の協力を得て、毎年山鉾の建造作業を受け持つ「大工方」が通例の期間外および町内以外の場所において、特例的にこのような仮組作業に取り組むことが可能となった。
事業の成果	今年度に補修がなされた部材について、補修前後の形状をデジタル3Dスキャンすることで、立体的な補修記録を残すことができただけでなく、補修前後の重ね合せ比較を行うことで、補修作業に対する評価手法の提案を行った。次に、山鉾の完全組立後では間近で確認することのできない、屋根構造の詳細なデジタル記録を行ったことで、懸装品や屋根を取り付ける前の骨組み状態としての山鉾の3Dモデルの構築や、今後の山鉾の構造特性の分析に活用できる調査データを入手することができた。また、通常は地上から観察することのできない、大工方の屋根組立作業の一部始終を録画することで、山建て技術の継承に資する記録映像を得ることができた。
今後の課題・展望	本事業で得られたデータはまだ整備が完了していないため、まずはその達成が求められる。また、今後の同様の記録作業においては、本事業のような部材の仮置施設での作業など、特例的な環境が整わないため、実際の山建ての場所、時期に限定されたデータ収集となる。そのため、迅速かつ軽易な記録手法の開発が求められる。